

だいせんこどう ぼうりょうみち
歩き・み・ふれる大山古道in坊領道



阿弥陀仏供養塔

廻國供養塔

地蔵道の道標

三十六番

三十五番

三十四番

三十三番

三十二番

三十一番

鳥取県立
大山青年の家



阿弥陀仏供養塔



廻國供養塔



「地蔵道」の道標



三十六番



三十五番



三十四番



カギカケ山王

カギカケ山王



三十三番



三十二番



三十一番

凡例

歴史の道選定場所

【日本遺産の構成文化財】

大山道	川床道
	横手道
	坊領道
	尾高道 (丸山道含む)
	溝口道



坊領道・尾高道の分岐にある
「分れ地蔵」と「道標」

坊領道・尾高道の分岐にある
「分れ地蔵」と「道標」

大山道とは・・・

大山は、古より靈山として信仰され、その中腹には奈良時代に地蔵菩薩を祀る大山寺が成立しました。大山道は、その大山寺へ参詣する道の総称です。この大山道は近世までに5つの主要な道（川床道・横手道・坊領道・尾高道・溝口道）が整備され、その道の1つ、大山の北麓方向から参詣する道が坊領道です。大山道は大山に近付くにつれてまとまっていき、大山寺境内付近で川床・坊領・尾高・溝口・横手の五道が合流しました。大山道のうち「川床道・横手道・坊領道」が『歴史の道100選』に選定されています。

坊領道とは・・・

大山道の一つ坊領道は、大山北麓の村々からの主要な参詣道で、大山寺領の北端に位置する坊領村を経由することにちなんで坊領道と呼ばれました。沿道には、旅人の目印として植えられたと伝わる枯松（一町松）や、一町ごとに置かれた一町地蔵が並び、淀江湊や御来屋方面から多くの参詣者や牛馬を引き連れた人々が通りました。その後、道の大部分は拡幅整備されて現在の県道大山口大山線となり、一部が林の中に大山古道として残りました。とくに種原バス停から大野池入口付近は、古道の姿が良好にとどめられています。今回歩く大山古道は、廻国供養塔が北側入口付近に建ち、沿道には一町地蔵や「地蔵道」と刻まれた道標などが並び往時の信仰のふかさを偲ばせます。

【廻国供養塔】

江戸時代の元禄・享保の頃、全国六十六ヶ国の納経所を巡礼する日本廻国を行う行者が急増しました。日本廻国は「源頼朝や北条時政が前世に廻国納経を行った善果によって生まれ変わった」という因縁に由来すると言われ、六十六部とも呼ばれた廻国行者は来世への生まれ変わりを願い、日本六十六ヶ国の著名な社寺に大乘妙典（法華経）を書写し奉納巡拝しました。山陰の主要な納経所は、「出雲の大社」「隠岐の焚火」「因幡の一ノ宮」そして「伯耆の大山寺」となっており、全国各地から廻国行者が大山寺を訪れました。大山山麓では、長期にわたる行者の善行を記念して、または廻国巡礼を果たした六十六部の廻国成就を記念して多くの石碑が建てられました。大山古道の北側入口の廻国供養塔は、正徳3年（1713）の3月に当時大山寺領であった飯戸村の関係者によって建てられたものです。

【一町地蔵】

一町（約109m）ごとに建てられた一町地蔵が、6体見られます。光背部分に番号や寄進した村や施主あるいは（個人の名前）が刻まれています。番号は大山寺までの町数で、明瞭に読めるものの位置から、これらが三十六町から三十一町にかけてのものと知られます。三十一番には遠州濱松（静岡県浜松）の村名が見えます。

【カギカケ山王】

カギカケ山王の小祠の基礎や石垣が残されています。『大山寺縁起』に、仙人が修行した際に四角山王が現れ、この山を守る誓いを立てたと書かれています。大山の聖域への入り口として、横手道に木ノ目、大神山神社奥宮の裏手に岩ノ目、川床道に動石、坊領道に釘ノ目山王が置かれました。享保年間（1716～1736）の古文書に「馬苦勞座より十八町下のカギカケ山王権現御座なり。始めて参詣の者はカギを上るなり。」と見えます。坊領道の釘ノ目山王は、カギカケ山王とも呼ばれました。

【地蔵道の道標】

廻国供養塔から南に進むと、左手に頂部がとがった形の道標が見えます。前面に「地蔵道」と刻まれており、この道が大山の地蔵菩薩（垂迹は大智明権現）に詣でる主要な道であることを物語っています。

<p>〔正面〕</p> <p>三十一番</p> <p>遠州敷智郡濱松</p> <p>施主 龍禅寺村宗心</p> <p>〔左側面〕</p> <p>享保十二未丁年 十一月十五日</p>	<p>三十二番</p> <p>汗入郡長田村入江右工門</p> <p>九代先祖為菩提</p>	<p>〇〇番</p> <p>施主</p> <p>飯戸村中</p>	<p>三十四番</p> <p>施主 入江〇〇〇</p> <p>庄原村〇〇〇</p>	<p>三十五番</p> <p>施主 〇〇〇〇〇</p> <p>〇尾七代右工門</p>	<p>〇〇六番</p> <p>施主 前村</p> <p>陶山太兵衛</p>	<p>正徳三癸巳年</p> <p>西休師匠関東常陸水戸領芳田</p> <p>部田之倉村常殿</p> <p>梵字 奉供養大乘妙典六十六部日本</p> <p>欽言〇〇</p> <p>三月吉祥日伯芴汗入郡大山領飯戸村 西休法師</p> <p>回 國</p>
--	---	----------------------------------	---	--	---------------------------------------	---